

区自治協議会(第8期)を振り返って
～成果と課題～

(抜粋版)

新潟市区自治協議会会長会議

令和5年3月31日

はじめに

区自治協議会は、平成 19 年の政令市移行に伴う区制施行に合わせ設置されて以来、「協働の要」として、多種多様な地域課題の解決に向けたさまざまな取組を重ねてきました。

本資料は、第 8 期の各区自治協議会が、どのような地域課題に対して、どのように考え取組を展開してきたか、またその取組の結果・成果・課題などについて記録し次期以降へと引継ぐことで、今後の区自治協議会のさらなる活性化へと繋げることを目的に作成したものです。

地域の特性・事情に応じた各区の工夫した取組が記録されていますので、これからの区自治協議会委員におかれましては、自らの区はもちろん、他区の取組についてもご一読いただき、今後の地域活動の一助にさせていただきたいと思えます。

また、巻末には、区自治協議会の活動・運営における課題について、全委員を対象に実施したアンケート結果と、その解決に向けた各区自治協議会の意見交換概要を掲載しましたので、こちらをご参照いただき、今後の活動に際して参考にさせていただきたいと思えます。

結びとなりますが、区自治協議会委員として、住民自治の推進にご尽力いただいた今期 250 余名の委員の皆さまに、会長会議を代表して感謝を申し上げます。

新潟市区自治協議会会長会議

座長 後藤 岩奈

目次

北区自治協議会

北区自治協議会（第8期）を振り返って・・・・・・・・・・・・ 1

令和3年度北区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 5

令和4年度北区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 8

東区自治協議会

東区自治協議会（第8期）を振り返って・・・・・・・・・・・・ 12

令和3年度東区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 16

令和4年度東区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 19

中央区自治協議会

中央区自治協議会（第8期）を振り返って・・・・・・・・・・・・ 22

令和3年度中央区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 26

令和4年度中央区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 30

江南区自治協議会

江南区自治協議会（第8期）を振り返って・・・・・・・・・・・・ 35

令和3年度江南区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 39

令和4年度江南区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 43

秋葉区自治協議会

秋葉区自治協議会（第8期）を振り返って・・・・・・・・・・・・ 47

令和3年度秋葉区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 50

令和4年度秋葉区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・ 67

南区自治協議会

南区自治協議会（第8期）を振り返って	78
令和3年度南区自治協議会提案事業 事業評価書	82
令和4年度南区自治協議会提案事業 事業評価書	87

西区自治協議会

西区自治協議会（第8期）を振り返って	91
令和3年度西区自治協議会提案事業 事業評価書	95
令和4年度西区自治協議会提案事業 事業評価書	100

西蒲区自治協議会

西蒲区自治協議会（第8期）を振り返って	106
令和3年度西蒲区自治協議会提案事業 事業評価書	110
令和4年度西蒲区自治協議会提案事業 事業評価書	113

区自治協議会の活動・運営における課題解決に向けた

情報共有について（第8期から第9期へ）	116
北区自治協議会	120
東区自治協議会	122
中央区自治協議会	124
江南区自治協議会	126
秋葉区自治協議会	128
南区自治協議会	130
西区自治協議会	132
西蒲区自治協議会	134

西区自治協議会（第 8 期）を振り返って

西区自治協議会会長 大谷 一男

1 はじめに

人口減少や少子高齢化が進む中、地域課題は複雑多様化しており、これまで以上に区民や行政と協働し、課題解決のために取り組んでいくことが重要となっています。

今期は、西区自治協議会として重点を置く地域課題を「環境美化」「支え合いの取り組みの輪を広げる」「区の魅力発信・賑わい創出」として取り組み、「地域の担い手育成（自治会・民生委員・児童委員）等」については、令和 3 年度にて一区切りをつけ、令和 4 年度からは新たに「防災」について取り組みました。また、今期は次期西区区ビジョンまちづくり計画策定の時期となっていたことから、計画策定に向けたアンケート調査についても取り組みました。

第 7 期に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、徐々に地域活動が再開され、西区自治協議会においても、参加手法にリモート参加を取り入れるなど、環境に合わせた会議開催を模索しながら、協働の要としての役割を停滞させることの無いよう努めました。

第 9 期の西区自治協議会において、さらなる地域課題の解決に取り組んでいただけのように、第 8 期の成果や取組をここに報告いたします。

2 取組内容・成果・課題

(1) 本会について

ア 次期西区区ビジョンまちづくり計画策定に関する議論

平成 27 年に策定された西区区ビジョンまちづくり計画が令和 4 年度で満期となることから、第 8 期は次期西区区ビジョンまちづくり計画を策定するためにさまざまな議論を重ねました。

委員全体ではワークショップを実施し、現在の計画に基づき実施されてきた取組と成果を検証するとともに、次期西区区ビジョン策定に向け現状認識と将来の課題を把握することを目的に意見交換を行いました。

各部会においては所管する分野を中心に議論をかわし、次期西区区ビジョンまちづくり計画が、より地域課題に沿った内容となるよう積極的に意見出しを行いました。

イ 区自治協議会における議論の活発化

第 8 期においては、部会の垣根を越えて、委員全体で活発に議論を行うことを目指し、部会での取組とは別に、「防災」をテーマとして委員全体で取り組みました。委員を対象に防災についてのアンケートを実施し、回答する際は委員個人のみではなく、所属団体の意見も併せて吸い上げを行い、委員間で共有を行いました。また防災に関するワークショップを行い、委員同士で活発な議論を行いました。将来的にはテーマを設けずとも、区自治協議会で常に活発な議論が行われることを目指します。

ウ 西区自治協議会委員研修会の実施

西区自治協議会では、第 8 期に区独自の委員研修会を 2 回実施しました。

令和 3 年度は、昨今課題解決の指標とされているSDGsについて理解を深めるために、講師の先生を招いて勉強会を実施しました。

令和 4 年度は、今期西区として重点を置く地域課題としても取り組む「防災」について、講演会を開催し、多発する災害に備えるための知識を得る研修会を実施しました。

(2) 部会・提案事業について

ア 第 1 部会

第 1 部会は、防犯、防災、自然環境、住環境分野を所管する部会です。

第 8 期では、自然環境、住環境分野である「環境美化」を重点的に取り組む地域課題として活動を行いました。令和 3 年度に現地調査としてごみ拾いを行い、市関係課やごみ拾い SNS 開発会社との意見交換を実施しました。令和 4 年度は、前年の現地調査や意見交換で見えた西区の課題を解決するため、区民の環境美化意識向上につながる 2 つの事業を実施しました。1 つ目は、区内で活動する企業や団体等にパートナーとなってもらい、西区自治協議会が指定したごみの多い場所でごみ拾いを実施してもらう「パートナー制度」です。2 つ目は、ごみ拾い SNS ピリカを活用し、西区内でごみ拾いをした様子を投稿してもらう「さぁチャレンジ！あなたもできます。#西区をきれいに！！」です。

イ 第 2 部会

第 2 部会は、保健・福祉、文化・スポーツ、教育分野を所管する部会です。

第 8 期では、重点的に取り組む地域課題である、「支え合いの取り組みの輪を広げる」を念頭に、令和 2 年度に選定した「支え合いの大切さ」を広める標語の最優秀賞を用いたポスター・チラシを作成し啓発活動を行いました。また、現在の西区民の「支え合い」に対する認識と行動の実態をアンケート及びワークショップによって把握し、より多くの西区民が「支え合い」に踏み出すための手法を検討しました。

ウ 第3部会

第3部会は、産業、区の魅力発信、交通分野を所管する部会です。

令和3年度は、「区の魅力発信・賑わい創出」を重点的に取り組む地域課題とし、地域活動団体から課題解決につながる提案を募集し、地域活動団体とともに課題解決に向けて取り組みました。令和4年度は、西区を好きになり住み続けてもらうために、重点的に取り組む地域課題を「魅力発掘」に改め、西区にあるさまざまな魅力を掘り起こし、親しみを持ってもらえるよう「西区八景」と名付け選定しました。西区ホームページや西区自治協議会広報紙に掲載しました。

また、区の魅力を発信するためのプロセス等を学ぶ機会として、新潟経営大学観光経営学部の出口高靖教授から講義いただき、意見交換を実施しました。

エ 広報紙特別部会

広報紙特別部会は、西区自治協議会広報紙「西区を豊かに」の編集・発行を所管する部会です。

区自治協議会の活動を広く区民に周知し、認知度を上げる目的で、広報紙「西区を豊かに」を第8期に6回発行したほか、西区だよりで、区自治協議会特集を2回掲載いただきました。構成にあたっては、多くの方に読んでもらえるように、特集や連載企画を織り交ぜながら、手に取ってもらえる紙面づくりを心掛けました。

SNSに広報紙の記事を掲載することで、紙媒体では情報が行き届かない方への情報発信につなげることができました。区民参加型の企画としてとっておきの写真を募集する、「とっておきの私の一枚」を実施したほか、クロスワードパズルを掲載し、回答の際にいただくアンケートでは、区自治協議会に対する多くの意見や感想を得ることができました。

今後も区自治協議会の認知度を高めるため、親しみやすい紙面づくりに一層努めていきます。

オ アートフェスティバル特別部会

アートフェスティバル特別部会は、西区アートフェスティバルの企画・実施を所管する部会です。

区内の文化風土を耕して区民の一体感を醸成するため、区内で音楽・芸能やアート表現に取り組む方々の発表の場として、西区アートフェスティバルを年1回開催しました。そして、区内の大学・小学校・福祉事業所と連携し、アート作品展示・「おん×てっく（おんてっく）」を実施して好評でした。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3 おわりに

今期は、計6つの重点的に取り組む地域課題の解決に向けて取組を行い、事業内容に合わせて委員自身で取り組む手法と、地域活動団体から事業を募集する手法を取り入れることで、効率的に課題解決に向けて審議、事業実施を行うことができました。

来期も事業に合わせた手法をとることで、効率的かつ効果的に地域課題の解決に向けて取り組んでいきたいと考えております。

課題としておりました、本会での活発な議論も、「防災」という地域課題について部会の垣根を越えて議論することで、普段事業を共にしない委員同士での意見交換の機会を設けることにつながりました。来期も、部会と同様に本会でも活発な議論が行われるよう、引き続き取り組まれることを期待します。

第9期は、このような点を踏まえ、区民と市の「協働の要」として、活動の活性化がさらに図られることを願います。

令和4年3月25日

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	環境美化 【事業費予算500千円】
事業目的・概要	ごみ拾いSNSを活用する等、ごみを拾う人を増やし、ごみを捨てる人の行動変容を引き起こすことで、ごみのないきれいな西区を目指す。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ・区民が自ら日常的にごみ拾いをするにつなげる提案を令和3年7月1日から31日まで募集したが、応募団体が現れなかったため、業務委託方式から直営方式に切り替え事業を実施。 ・10月の部会開始前の時間を活用し、西区のごみの現状を把握するために流通センター東公園、鳥原高速バス停付近の高速道路側道の現地視察を実施。 【成果】 2時間で45ℓごみ袋約90袋分のごみを拾うことができた。 ・同日の部会では、廃棄物対策課を交え、西区のごみの現状と市の環境美化の取り組みを共有。 また、ごみ拾いSNSピリカの操作方法や活用方法等について、アプリ開発元である株式会社ピリカからzoomを用いて説明を受け意見交換を実施。 ・12月部会ではごみ拾いSNSピリカを実際に部会メンバーがダウンロードし、「#(ハッシュタグ)西区をきれいに」を付けて試験的に投稿を開始。 【成果】(令和4年3月11日時点) 投稿数:31件
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に現地視察を行うことで、西区のごみの現状を知ることができた。 ・ごみ拾いSNSピリカをダウンロードすることで、ピリカの操作性などを体感することができ、ごみ拾いを気軽に楽しめることを実感した。 ・外部の方の話しを聞き意見交換することで、新しい視点を事業に取り入れることができ、また、次年度事業検討の際にも柔軟に事業を計画・実施することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区は農村部から都市部まで様々な地域特性をもった地域であるため、各地域でごみの状況は様々である。西区をごみのないきれいなまちにするために、長期間地域や地元企業等と協力しながら取り組む必要があると考える。
備考	

令和4年3月25日

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	「支え合いの大切さ」を広める標語等活用 【事業費予算 500 千円】
事業目的・概要	「支え合いの大切さ」を広める標語を用いたチラシ等による啓発を実施し、標語をこれまで以上に拡散することで、能動的に他者の困りごとに気づき行動できる人を増やす。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>①標語を用いたポスター・チラシによる啓発活動</p> <p>1事業対象者 未来の地域の支え手となりうる30歳代～40歳代の子育て世代を中心とした全世代</p> <p>2啓発方法 最優秀賞作品「支え合い 勇気を出して 声かけて」を使用したポスター・チラシを作成し、配布・掲示することで啓発を行う</p> <p>3配布・掲示先 <ポスター> 小・中学校、商業施設、社会福祉施設、医療機関、郵便局、地域団体、行政施設 約840部配布 <チラシ> 小・中学校、行政施設 約13,200部配布</p> <p>②「支え合いの大切さ」を広める標語使用基準の周知 令和2年度に作成した「支え合いの大切さ」を広める標語の使用基準について、自治会・地域コミュニティ協議会宛てに積極的な活用の依頼を行うことで、「支え合いの大切さ」の周知につながるよう努めた。 標語使用届提出状況:6件(自治会広報紙への使用 など)</p>
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価、事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>【地域課題の抽出方法とその解決策】 平成30年1月の大雪を機に、地域での支え合いの大切さが再認識され、普段からこのことを意識してもらうきっかけとして標語を募集した。より多くの人に「支え合いの大切さ」を意識してもらうように、この標語を用いてポスター・チラシによる啓発活動や、標語の使用基準を定め誰でも標語を用いることができる環境を整えた。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ポスター・チラシは「普段のあいさつやちよっとした声かけも支え合いになる」という意図を盛り込んだデザインにできた。 チラシを小・中学校の全児童に配布することで、親子で改めて「支え合い」について考えるきっかけとなった。 学校のみならず、商業施設や医療機関など多くの世代が利用する施設にポスターの掲示依頼をすることで、子育て世代以外の年代にも「支え合いの大切さ」を啓発することにつながった。 地域団体等に標語を活用いただくことで、より広く「支え合いの大切さ」を広めることができた。 <p>【課題】 標語の募集や啓発活動などのきっかけづくりをしているが、能動的に他者の困りごとに気づき行動できる人が増えたかどうかは測定が難しい。しかし、「支え合いの大切さ」を広める活動は継続して行う必要がある。</p>
備考	

令和4年3月31日

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	区の魅力発信・賑わい創出 【事業費予算500千円】
事業目的・概要	住み始めて間もない子育て世代に今後も住み続けたいと思ってもらえるような西区を目指し、魅力を発信。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の解決に取り組む団体から課題解決につながる提案を募集し、協働して取り組んだ。 【事業名】文芸の故郷ガイドブックの作成と地域への誇りと愛着の醸成 【実施団体名】越後新川まちおこしの会 【内容】文芸の人を多く輩出する地域の紹介という観点から内野・五十嵐地区を紹介するガイドブックを作成し、内野・五十嵐地区の新たな魅力を探るとともに、新たなまちおこしのきっかけとした。 <ul style="list-style-type: none"> ・文芸の故郷巡礼ガイドブックの作成 作成部数・・・2,500部 配布先・・・西区自治協議会委員、地域の小中高等学校、取材協力者、講演会聴講者など ・小中学校PTA対象の『親が子に語る内野の新たな魅力と誇り』講演会は、新型コロナウイルス感染症により、事前収録した映像をオンラインで配信し、アンケートを実施した。 ・新潟西海岸の魅力再発見ツアーを実施 7月部会開始前の時間を活用し、原澤委員の提案による西区の魅力を海の視点から再発見するツアーを実施。 ・外部講師による魅力勉強会を実施 1月部会では、新潟経営大学観光経営学部観光経営学科出口教授より、「西区の魅力発信について」というテーマで講義いただき、意見交換を実施。 ・新潟国際情報大学 澤口ゼミ生による研究発表を実施 3月部会では、新潟国際情報大学国際学部3年澤口ゼミの学生による「拠点設置による地域資源の活用と地域活性化」というテーマで研究成果の発表を実施。
事業の評価	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内野・五十嵐地区から輩出された文芸の人をガイドブックを通じて多くの方に知ってもらうことができた。 ・『親が子に語る内野の新たな魅力と誇り』講演会では、コロナ禍で一堂に会しての講演会はできなかったが、内野中学校で実施した講演内容を内野小PTAへ配信し、125回再生された。 ・外部講師による魅力勉強会では、他都市の魅力発信事例等を織り交ぜながら講義いただき、意見交換により理解を深めることができた。 ・次年度事業の検討の際には、今までになかった視点を取り入れながら事業を検討することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案募集事業では、自治協議会が解決したい課題と、提案団体の提案内容との間での課題認識のズレを解消することができなかった。 ・文芸の故郷については、今後も継続して内野・五十嵐地区の魅力を発信し、地域を盛り上げていく必要がある。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	<p>第9回西区アートフェスティバル 【事業費予算 1,700 千円】</p>
事業目的・概要	<p>【目的】 ・西区全体の文化風土を耕して区の良さを再確認し、愛着を持てるようにする。 ・西区でアートの表現活動に取り組んでいるアーティスト等に発表の場を提供し、幅広く区民から知ってもらおう。 ・大学などと連携を深め、学術・文化豊かな西区の魅力を発信する。</p> <p>【概要】 ・西区自治協議会と新潟大学が共催で実施。 ・「音楽・芸能」分野の団体を対象にした発表の場として「アートフェスティバル」を実施し、音楽を通して区民の地域交流を深める。また、西区にちなんだ多様な「アート作品」展示を行う。</p>
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p><音楽・芸能団体発表> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止</p> <p><おん×てつく～音と光のコーナー～> 令和3年10月23日(土) 13:00～17:00 黒崎市民会館 新潟大学工学部人間支援感性科学プログラムの学生がピアノ演奏や音楽作品によって、音と光が融合した空間を制作。</p> <p><アート作品展示> 令和3年10月23日(土)13:00～17:00、10月24日(日)9:00～16:00 黒崎市民会館</p> <p>【作品内容】 ①新潟大学工学部によるアート作品 ②アール・ブリュット作品 ③区内小学生の自由研究優秀作品 ④新潟国際情報大学写真部作品</p> <p><来場者延べ人数>:460人</p>
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>◎アートフェスティバル 【地域課題の抽出とその解決策】 西区は、坂井輪地域・西地域・黒崎地域の3地域で構成されているが、西区が一体となった文化活動を行うため、アートの表現活動に取り組んでいる方々に発表の場を創出し、大学等と連携を深め区民の一体感の醸成を図った。</p> <p>【アンケート結果】 ◆調査方法：来場者を対象に当日アンケート配布を行い、退場時に回答。 ◆有効回答：226名（有効回答率49.1%） > 「おん×てつく（音と光のコーナー）」はどうだったか [とても良い…59.5%、まあまあ良い…31.1%、ふつう…8.5%、やや不満…0.9%、大いに不満…0.0%] > 「アート作品展示」はどうだったか [とても良い…63.5%、まあまあ良い…31.2%、ふつう…4.3%、やや不満…1.0%、大いに不満…0.0%]</p> <p>【評価（成果）】 ・来場者から、普段接することが少ない学生との交流ができて良かったとの感想を多数いただいた。 ・コロナで発表の機会が少ない学生や障がいがある方に、発表の機会を提供でき喜んでいただくことができた。 ・学生と自治協委員が自ら企画し、そして、受付などの運営も行い、様々な作品や体験コーナーで多くの方に楽しんでいただくことができた。学生と自治協委員との交流が生まれたこともよかった。</p> <p>【課題】 ・自由研究優秀作品は、手を触れていいものとダメなものを分け、作品内容がより良く見えるよう工夫すれば良かった。 ・音楽・芸能団体発表はコロナのため中止としたが、コロナ禍での判断が難しい。 ・団体からは、中止となり非常に残念だったという声も聞かれたが、次回声がけができるといいのではないかと。</p>
備考	

令和4年3月25日

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	地域の担い手育成等 【事業費予算300千円】
事業目的・概要	地域の担い手不足等の解消のヒントとなる取り組みを実施する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>1 昨年度事業の振り返り 昨年度事業で行ったリーフレット作成結果を踏まえて、地域の担い手育成についての実情はどのような状態か振り返り・分析をした。</p> <p>2 今年度および今後の方針について検討 昨年度の振り返り・分析の結果、近い将来の担い手については地域ごと様々な手法で選定に至っているという意見が多く見られた。一方で、今年度委員全体に特色ある区づくり事業として取り上げて欲しいキーワードについて調査を行ったところ、若年層の地域参加という声が多く見受けられた。 この結果を踏まえて、担い手育成について今後自治協議会としてどのように取り組んでいくべきか議論を進めた。</p>
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<p>【地域課題の抽出とその解決策】 従来、多くの地域で担い手不足等に悩んでいるという声をうけ、その問題を解消するヒントとなる取り組みを実施してきた。昨年度委員アンケートを行うことで地域の実情が見えたため、それを足掛かりに取り組める事業を検討した。</p> <p>【成果と課題】 ・昨年度のアンケートを分析すると、近い将来の担い手については、各地域それぞれの手法で候補を選定できているという声が多く見られた。 ・一方で、取り上げて欲しいキーワードとして若年層の地域参加の意見が多く見られ、若年層は将来の担い手となりえることから、若者の地域参加促進は取り組む必要がある。 ・以上のことを踏まえて、若年層の参加が少ない状況については、地域により実情が異なることから、担い手育成事業として単独で行うのではなく、今後検討する各事業の中で複合的に取り入れていくこととした。</p>
備考	

令和5年3月22日

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	環境美化 【事業費予算500千円】
事業目的・概要	ごみ拾いSNSを活用する等、ごみを拾う人を増やし、ごみを捨てる人の行動変容を引き起こすことで、ごみのないきれいな西区を目指す。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>・昨年度に委員自ら西区のごみの現状を調査し、廃棄物対策課や株式会社ピリカと意見交換を重ねることで見えた、西区が抱える環境美化の課題を解決するため、①ピリカを使った個人向け事業、②パートナー制度の2つの事業を実施した。</p> <p>・①【個人向け事業】 西区に在住・在勤する個人向けに、ごみ拾いSNSピリカを使った事業を実施。8月1日～11月30日の期間にピリカ内イベントページをフォローし、「#にしくをきれいに」をつけて10回以上投稿した人に賞品をプレゼント。 【成果】 参加者:16名 総投稿数:126件 賞品受賞者:5名</p> <p>・②【パートナー制度】 第1部会で指定したごみの多い場所(重点ポイント)で、ごみ拾いできる団体を募集。8月1日～11月30日の期間に海岸や高速道路側道、県市道沿線など、区内の様々な場所でごみ拾いを実施した。 当事業で使用するごみ袋を作成し、各団体に配布したほか、希望する団体にはのぼり旗を配布しごみを拾う際に活用いただいた。 【成果】 参加団体:16団体 延べ参加人数683人</p> <p>・①・②それぞれについて、区HPの他、西区自治協議会広報紙「西区を豊かに」にて広報を行った。</p>
事業の評価	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区に在住・在勤の方々の環境美化に対する問題意識の強さを感じることでできる取り組みとなった。 ・第1部会では引き続き環境美化に取り組むが、今年度の取り組みを通じ、少しでも西区民の環境美化意識の向上に繋がったのではないかとと思う。 <p>・個人事業では、西区にある多くのごみを回収することができ、その成果を全国のピリカユーザーと共有することができた。</p> <p>・パートナー事業では、従来より環境美化活動を行ってきた団体が参加することで、その取り組みを広報する機会にも繋がったほか、地域貢献に取り組みたい企業からも参加いただくことができた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人事業では、アプリのダウンロードから使い方までの広報が不足しており、参加者数を増やすことができなかった。 ・パートナー事業では、各団体の活動を随時報告できる仕組みがあるとよかった。 ・取り組み初年度であったため、各事業の開始時期が遅くなってしまった。 ・次年度以降、市本課(廃棄物対策課)と意見交換の場を設け、市本課や地域で活動する団体等と協働して事業に取り組むことで、多くの方から参加いただくことができる事業を実施することができるのではないかと。
備考	

令和5年3月22日

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	支え合いの大切さ普及 【事業費予算 500 千円】
事業目的・概要	西区民が現在「支え合い」についてどのような意識をもっているのか現状を把握し、効果的な手法で支え合いの大切さを多くの西区民に広めることで、いざという場面で能動的に支え合いを行える人を増やす。次年度に効果的な手法で事業を実施するために、実態把握調査を行う。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	①「支え合いに関するアンケート調査」 対象者：西区内に在住・在勤、西区に関わりのある方 設問数：12問 回答期間：令和4年7月29日～令和4年10月14日 回答数：2,704名 ②「支え合い」に関するワークショップ 日時：令和4年10月29日 参加者数：25名 ワーク内容：①支え合いについて自分が行動できた経験・行動できなかった経験について話し合う ②「支え合い」を広めるために、西区で実現してほしいアイデアを考える
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	【地域課題の抽出方法とその解決策】 平成30年1月の大雪を機に、地域での支え合いの大切さが再認識され、普段からこのことを意識してもらうきっかけとして標語を募集した。標語を用いた啓発活動を昨年度行い、より広く多くの方に「支え合いに大切さ」を考えてもらう事業を検討するにあたり、まずは現在の西区における「支え合い」に関する認識を把握することとした。 【成果】 ・アンケートの回答について、各委員が自身の所属団体等に回答を依頼することで、幅広い年代の回答が集まった。また西区内における中学校にタブレットを用いてWEB回答を依頼することで、多くの回答を回収することができた。 ・アンケートを行うことで、全年代において「支え合いは大切である」という意識はもっているが、50代以下の世代においては、普段の生活において支え合いながら生活できているかという設問に対し、できていないという回答も多く見受けられた。 ・ワークショップにおいては、参加者を第2部会各委員の所属団体等に声をかけてもらうことで様々な年代・職種の方に参加していただくことができた。 ・ワークショップ参加者からも、当日の内容について「とても満足した」「どちらかという満足した」の声が9割を超えており、充実した事業となった。 ・西区において実現してほしい「支え合い」に関するアイデアについて、「毎月【5】がつく日は【こ】あいさつ感謝デー」と設定し、支え合いのきっかけとなるあいさつを広く実践するなど魅力的なアイデアを得ることができた。 【課題】 ・アンケートの回答やワークショップ参加者を依頼する際、働き世代(20代～50代)へのアプローチ方法があまりなく、事業参加者において多少年代に偏りが発生した。
備考	

令和4年度

令和5年3月22日

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	魅力の発掘 【事業費予算500千円】
事業目的・概要	西区にある広く周知された魅力や一部の人のみに浸透している魅力など、さまざまな魅力を深掘り・発信し、西区を好きになって住み続けてもらうことを目指す。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ・従来型の取り組みにより、事業を実施。 ・部会内でグループワークを行い、西区の具体的な魅力(西区の資源)を掘り起こし、掘り起こした魅力をマップに落とし込んだ。 ・西区自治協委員全員に西区八景を募集するアンケートを実施(6月本会) ・11月5日・6日に開催されたアートフェスティバルで第3部会の取り組みを周知するチラシを配布し、Instagramで「#にしくらし」「#西区八景」を付けた西区八景の投稿を募集した。 ・第3部会で掘り起こした魅力と6月に実施したアンケートで挙げた西区の魅力の中から、①田園と都市がバランスよく存在している、②人と自然の関りが見える、③西区の特徴が表れている、等の視点から「西区八景」を選定した。 ・選定した西区八景は、区ホームページや西区自治協議会広報紙に掲載したほか、チラシを作成し区内の公共施設に設置した。
事業の評価	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区に点在する様々な魅力を掘り下げ、西区を好きになってもらうにはという観点から、西区の魅力を「西区八景」という形で発信することができた。 ・発信媒体にはインターネットだけでなく、紙媒体も活用することで様々な年代の方に魅力を届けることができた。 ・今年度選定した西区八景は、単年度ではなく長期的な事業として活用できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区八景の選定に時間がかかり、周知にかかる時間が足りなかった。
備考	

令和5年3月22日

区自治協議会提案事業 事業評価書(案)

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	第10回西区アートフェスティバル 【事業費予算 1,700 千円】
事業目的・概要	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区全体の文化風土を耕して区の良さを再確認し、愛着を持てるようにする。 ・西区でアートの表現活動に取り組んでいるアーティスト等に発表の場を提供し、幅広く区民から知ってもらう。 ・大学などと連携を深め、学術・文化豊かな西区の魅力を発信する。 <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区自治協議会と新潟大学が共催で実施。 ・「音楽・芸能」分野の団体を対象にした発表の場として「アートフェスティバル」を実施し、音楽を通して区民の地域交流を深める。また、西区にちなんだ多様な「アート作品」展示を行う。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p><おん×てっく～音と光のコーナー～> 令和4年11月5日(土) 13:00～17:00 黒埼市民会館 新潟大学工学部人間支援感性科学プログラムの学生がピアノ演奏や音楽作品によって、音と光が融合した空間を制作。</p> <p><音楽・芸能団体発表> 令和4年11月6日(日) 13:00～16:00 黒埼市民会館 新型コロナウイルスにより中止していたが、3年ぶりに開催。地域の7団体(うち1団体はビデオ放映)による演奏や踊りなどが披露された。</p> <p><アート作品展示> 令和4年11月5日(土) 13:00～17:00、11月6日(日) 9:00～16:00 黒埼市民会館</p> <p>【作品内容】</p> <p>①新潟大学工学部によるアート作品 ②アール・ブリュット作品 ③区内小学生の自由研究優秀作品 ④新潟国際情報大学写真部作品</p> <p><来場者延べ人数>:607人</p>
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価、事業の公益性・実効性・効果性の評価など)</small>	<p>◎アートフェスティバル 【地域課題の抽出とその解決策】 西区は、坂井輪地域・西地域・黒埼地域の3地域で構成されているが、西区が一体となった文化活動を行うため、アートの表現活動に取り組んでいる方々に発表の場を創出し、大学等と連携を深め区民の一体感の醸成を図った。</p> <p>【アンケート結果】</p> <p>◆調査方法：来場者を対象に当日アンケート配布を行い、退場時に回答。 ◆有効回答：384名(有効回答率63.3%)</p> <p>➢「おん×てっく(音と光のコーナー)」はどうだったか [とても良い…62.3%、まあまあ良い…27.4%、ふつう…8.5%、やや不満…1.8%、大いに不満…0.0%]</p> <p>➢「音楽・芸能団体発表」はどうだったか [とても良い…81.5%、まあまあ良い…12.9%、ふつう…3.9%、やや不満…0.6%、大いに不満…1.1%]</p> <p>➢「アート作品展示」はどうだったか [とても良い…63.9%、まあまあ良い…25.7%、ふつう…8.6%、やや不満…1.4%、大いに不満…0.4%]</p> <p>【評価(成果)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段接することが少ない学生との交流ができて良かった、との感想を来場者の皆さんから多数いただいた(おん×てっく、アート作品展示)。 ・3年ぶりに音楽・芸能団体発表を開催し、コロナで発表の機会が少ない地域団体の方に喜んでいただくことができた。 ・学生自ら企画・運営を行い、様々な作品や体験コーナーで多くの方に楽しんでいただくことができた(おん×てっく、アート作品展示)。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「音楽・芸能団体発表」では、来場者は身内が多く、身内の発表が終わると帰る人が多かった。 ・4年度で第10回が終了し、5年度は前例にとらわれず、一から企画を考えた方が良いのではないか。
備考	

令和5年3月22日

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	地域の防災力向上 【事業費予算 300千円】
事業目的・概要	災害に対する区民の不安、防災・減災への疑問などを少しでも解消することで、いざという場面で区民が迅速に対応できること、命を守る行動がとれることを目指し、ワークショップや講演会を実施する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>○災害に対する不安や、防災・減災に取り組む上での疑問を把握するために、西区自治協議会委員を対象にワークシートを配布し、意見を集約した。ワークシートに取り組む際は、委員個人に留まらず、所属団体からも意見を収集してもらい、幅広い意見を集約した。</p> <p>○西区自治協議会委員を対象に「クロスロード」という手法でワークショップを行った。各班2つのテーマについて、自分だったらどのように行動するか話し合いを行い、自分以外の価値観を共有した。</p> <p>○令和5年1月14日(土)に防災に関する講演会を実施した。 講師:防災システム研究所 所長 山村 武彦氏 講演会テーマ:日ごろから地震・災害に備えて私たちにできること 参加者:123名</p>
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・有効性・効率性の評価など)</small>	<p>○「防災」という、誰もが自身に関連するテーマに取り組むことで、部会の垣根を越えて委員全体で活発な議論を行うことができた。</p> <p>○ワークショップでは、様々な母体から選出された委員同士で共通のテーマについて意見交換を行うことで、多様な意見が出され自身以外の価値観を知ることができた。</p> <p>○防災の専門家を招き講演会を行うことで、これから防災に対し取り組む際の知識を得ることができた。</p> <p>○講演会は西区自治協議会委員に留まらず、自治会や地域コミュニティ協議会など日ごろから地域の防災に取り組んでいる方にもご案内し、参加していただくことで、委員のみではなく、西区全体の防災力の向上につなげることができた。</p> <p>○講演会の参加者からは「非常によかった」「よかった」の声が9割を超え、充実した事業となった。</p> <p>○今年度は西区自治協議会委員を中心に事業を展開したが、今後はより多くの区民を巻き込んだ事業を行い、区全体の防災力向上に取り組めると良い。</p>
備考	

令和5年3月22日

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	区ビジョン策定のための西区民アンケート 【事業費予算 800千円】
事業目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> ○西区民が考える、現在のまちづくり計画に対する評価や、これから力を入れて取り組むべき施策分野についての考えを集約する。 ○西区役所と協働して、次期西区区ビジョンまちづくり計画を策定する際の参考とするとともに、西区自治協議会の今後の取り組みの参考とする。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ○調査票の発送による調査 <ul style="list-style-type: none"> ・期間 令和4年7月15日～7月29日 ・対象者 令和4年6月末時点で西区在住昭和32年4月1日から平成19年4月1日までに生まれた男女から無作為抽出された2,000人 ・回答者数 972件 ・回答率 48.6% ○WEBフォームによる一般募集 <ul style="list-style-type: none"> ・期間 令和4年8月21日～8月31日 ・回答数 5件
事業の評価 <small>（地域課題の抽出方法や企画立案の経緯、事業の公益性・実効性・効率性の評価など）</small>	<ul style="list-style-type: none"> ○事業を担当する運営会議のみではなく、本会の時間を用いて委員全体で、実施するアンケート項目を検討することで、多様な視点から考えるアンケートを作成することができた。 ○本会の場で委員全体で、アンケート項目について協議することで、議論の活性化にもつながった。 ○アンケートの回収率は半数近くとなり、多様な意見を集約することができ、次期西区区ビジョンまちづくり計画の策定のみではなく、今後の自治協議会の事業においても参考となる意見を得る事ができた。 ○西区役所と次期西区区ビジョンまちづくり計画の内容について議論する上で、アンケート結果を参考にすることでより区民の意見を反映した内容とすることができた。
備考	

区自治協議会の活動・運営における課題解決に向けた 情報共有について（第8期から第9期へ）

第8期新潟市自治協議会会長会議

1 「区自治協議会の活動・運営に関するアンケート」について

(1) 概要

区自治協議会の活動・運営に関して、第8期委員が感じている課題を把握し、より良い協働の仕組みづくりに役立てることを目的に、令和4年度に実施したものです。（以下、委員アンケートとする。）

(2) 集計結果について

ア 回答数

8区合計 189名/251名（回収率75.2%）

イ 設問1：活動や運営における課題（3つ選択）

課題	回答数	
自治協議会の認知度向上	97	1位
幅広い年代の委員の確保	83	2位（同数）
住民の意見・ニーズの把握方法	83	2位（同数）
地域課題の解決に向けた検討や話し合いの技術	55	4位
委員としてのスキルアップ	49	5位
各コミ協との情報共有・連携	47	
委員間における地域課題の共有	46	
民間事業者やNPO等との連携	40	
全体会や部会の運営方法	36	
発言のしやすさ	18	
その他	7	
未回答	6	
計	567	

・回答数の多い上位3項目と4位以下で大きな差がつかしました。

ウ 各項目に関連する主な意見（自由記載欄より抜粋・要約）

自治協議会の認知度向上 【97票】

- ・民間事業者やNPO、多様な主体との連携強化が認知度向上につながる。
- ・ワークショップをはじめ、地域に根付いた活動を継続することが、市民からの理解や賛同につながる。

幅広い年代の委員の確保 【83 票】

- 年代に偏りがあるので、年代別に委員数を設定してはどうか。
- 委員や年代が固定化され、新しいアイデアや取組が出にくい。
- 年代のみならず、幅広い職種・経験を有する方の選出が必要。

住民の意見・ニーズの把握方法 【83 票】

- 協議内容が地域課題の解決にどれだけ反映されたのか可視化しにくく、検討すべき内容や成果を把握しづらい。
- 一部会の所管分野が広範囲にわたっており、地域課題を絞りづらい。
- 自治協議会から地域コミュニティ協議会へと個々の地域団体との関係性構築による情報収集・提供しやすい環境づくりに取り組む必要がある。

地域課題の解決に向けた検討や話し合いの技術 【55 票】

- 提案を行う際はグループワークを盛り込めれば議論の密度が高くなる。
- 行政からの連絡、市政方針などに関する報告が多く、地域課題への理解を深める時間が少ない。

委員としてのスキルアップ 【49 票】

- 就任初期に自治基本条例、自治協議会条例、市の事業内容・予算・財政状況について研修で理解を深めることが必要。
- 委員研修やスキルアップにつながる機会が少ない。
- 諮問への対応や市・区への建議を行うために、相応の知識・思考力が必要。

その他の項目に関連する主な意見

- 地域課題の共有以前に、各地域や活動状況など現状共有が不十分なのではないか。そもそも「課題」の定義も捉え方が人それぞれであるため、共通認識が作りづらい。
- 自治協はより広範囲に区・市全域に関連する規模の事業に取り組むべきである。それには自治協だけでなく、地域の事業者や NPO など民間との連携が必須かと考える。
- 区内の産官学体など区づくりに参考となる特色ある業態の情報や仕組みについて、話を聞く機会を設けることで新たなアイデアに活かせるのではないか。
- Zoom や LINE などのツールを活用し、対面で集まらなくても遠隔で気軽に話し合える手法を取り入れていくべきではないか。

エ 設問2：課題解決に向けて必要な改善・取り組みの方向性（1つ選択）

改善・取り組み	回答数	
地域課題や住民ニーズの把握力強化に向けた取り組み	73	1位
広報・発信力強化に向けた取り組み	30	2位
全体会や部会の運営力強化に向けた取り組み	28	3位
地域団体等との連携強化に向けた取り組み	26	4位
自治協提案事業などの企画力強化に向けた取り組み	23	5位
その他	6	
未回答	3	
	189	

- ・回答数1位が突出し、2位以下は大きな差が付きませんでした。

オ 各項目に関連する主な意見（自由記載欄より抜粋・要約）

地域課題や住民ニーズの把握力強化に向けた取り組み 【73票】

- ・地域課題や住民ニーズの把握に取り組むための施策の1つとして、広報・発信力強化に向けた取り組みがあるのではないかと。この2つを両輪で進めていくことも重要ではないかと。
- ・学術機関や民間・NPO等との連携を通じて、アンケートやデータ分析方法の専門性や技術を高める。
- ・各々の出身母体と密に連携を図り、委員がパイプ役となって議論等を持ち帰り地域の声を集約したうえで報告する役割の徹底が必要。
- ・自治協議会全体で捉えている地域課題と各委員が日頃感じている地域課題のギャップを埋める努力がニーズ把握につながると感じている。
- ・ワークショップの積極的な導入など、委員間の情報共有、コミュニケーション作りの見直しを図る。

広報・発信力強化に向けた取り組み 【30票】

- ・Twitter、Instagram、ブログ等のSNS媒体をもっと活用すべき。
- ・地域の祭りやイベントなどに自治協議会として参加する機会を増やし、人との交流・つながりをつくる。
- ・アンケート調査を通じて存在をアピールできると考える。

全体会や部会の運営力強化に向けた取り組み 【28票】

- ・報告事項が多く、従来の目的である審議事項が少ないので、提案しやすい会議運営への改善が必要。

- 全体会で意見を言いづらいように感じるため、ワークショップを増やすなど、ざっくばらんに意見を言い合えるような雰囲気づくりが大切だと思う。
- 幅広い年代の確保、特に若い人材を増やすためには、開催時間の変更やオンライン等での新たな運営手法について、検討していく必要がある。

地域団体等との連携強化に向けた取り組み 【26票】

- テーマを1つ決め、各種地域団体からプロポーザル方式で企画提案をしてもらい、地域交流事業を行う。
- 社会福祉協議会、公民館等の機関や各種団体が協働して事業を行えば、市民にとって利便性の向上につながると思う。そのために、自治協議会がパイプ役となり、相互理解・情報共有に努めながら連携を強化していくことが重要である。
- 地域団体は明確な目的を持っている。目的を擦り合わせながら、各団体が得意分野を活かせるように、自治協議会が学校やPTA、NPO、ボランティア団体の活動を後押しする。

自治協提案事業などの企画力強化に向けた取り組み 【23票】

- 事業提案に向けた意見交換・ワークショップ、他区の事例共有等の機会を増やす。
- 委員は企画力や行動力に弱さを感じる。課題の具体化時点から必要に応じて民間事業者やNPOと一緒に意見交換等を行えば、問題の掘り出しから活動の速度も上がるように思える。
- 企画をするうえで、地域課題やニーズを分析する「調査の期間」と解決へ向けた事業を実施する「行動の期間」を設けシステム的に取り組む。

2 区自治協議会の課題に関する部会検討について

事務局からの提案事項（区民アンケート）や、委員アンケートで課題意識が高かった項目、区の実情に応じた検討すべき課題について、部会単位で検討・意見交換を令和4年度に実施しました。

実際に活動等に取り入れていくかどうかについては第9期委員の考えも必要になるため、検討は「決定」するのではなく「意見交換」の形式で行い、第8期委員からいただいた多様な意見を第9期委員に引継ぐこと目的に、次項より、各区の意見交換概要として本資料に掲載するものです。

区自治協議会の活動・運営における 課題解決に向けた情報共有

西区自治協議会

1. 第1部会

(1) 区自治協議会の認知度向上について

- 認知度を向上するために必要なことはなにか
 - ・委員が、自治協議会で得た情報を所属団体へフィードバックすることで、「自治協議会」の活動が広まり認知度向上につながるのではないかと
 - ・自治協議会の活動は、委員と区役所とで完結するものが多いため、地域住民も巻き込んだ活動が必要であると
 - ・自治協議会発足から16年が経った今になって認知度向上を議論するのは違うのではないかと

(2) 住民の意見・ニーズ把握方法について

- ・委員の所属団体へフィードバックを行っても、地域住民にまでその情報が浸透しているとはいえず、自治協議会委員が地域の意見を吸い上げるのは困難であると

2. 第2部会

(1) 区自治協議会の認知度向上について

- 認知度を向上するために必要なことはなにか
 - ・「区自治協議会」という文字をあらゆる場面でPRしていく必要があると
 - ・関心がないと記憶に残らないので、「区自治協議会」に関わる人を増やすと
 - ・区自治協議会が今以上に「主体」として活動しリーダーシップをとれば、おのずと認知度があがる

(2) 住民の意見・ニーズ把握方法について

- どのような手法が考えられるか
 - ・地域コミュニティ協議会では全戸配布を利用して調査した例があると
 - ・調査する年代によっては、学校などの教育機関に協力を依頼したほうがよい

- **ニーズ把握の進め方について**
 - ・調査したいテーマ・課題によって手法が異なるため、調査内容が確定してからニーズ把握調査は進む
 - ・行政で多くの調査を実施してきているため、既存のデータを活用してそこからニーズを把握できるのではないか

3. 第3部会

(1) 区自治協議会の認知度向上について

- **認知度を向上するために必要なことはなにか**
 - ・若い世代の自治協議会への参加を呼び掛けるため、夜間の開催を検討する

(2) 住民の意見・ニーズ把握方法について

- **どのような手法が考えられるか**
 - ・自治協議会委員とコミュニティ協議会会長とで意見交換（情報共有）の場を設ける
 - ・まちづくりのためのワークショップを定期的を開催する
- **ニーズ把握の進め方について**
 - ・自身が所属する部会以外の委員とも積極的にコミュニケーションをとることとで、地域課題の把握につながるのではないか